

沿革

1947年 3月	日本窒素肥料株式会社(現:チッソ株式会社)の一部従業員を以てプラスチックの総合事業化を計画し、積水産業株式会社として発足
1948年 1月	奈良工場を新設、自動射出成形によるわが国最初のプラスチック自動射出成形事業を開始
1948年 1月	積水化学工業株式会社に商号変更
1953年 3月	大阪証券取引所に上場
1953年 9月	東京工場を新設、プラスチック成型品の製造を開始
1954年 4月	東京証券取引所に上場
1956年 6月	中央研究所(現:開発研究所)を新設
1960年 8月	滋賀栗東工場を新設、塩化ビニルパイプ、塩化ビニル建材製品の製造を開始
1960年 11月	滋賀水口工場を新設、ポリビニルブチラール、同中間膜の製造を開始
1962年 7月	武蔵工場を新設、プラスチックテープおよび塩化ビニルテープの製造を開始
1964年 1月	徳山積水工業株式会社(現:連結子会社)を設立、塩化ビニル樹脂の製造を開始
1971年 2月	鉄骨系ユニット住宅「ハイム」の販売を開始、住宅事業に進出
1971年 10月	奈積工業株式会社(現:近畿セキスイハイム工業株式会社、連結子会社)を設立、ユニット住宅の製造を開始
1972年 3月	株式会社サンエスハイム製作所(現:東京セキスイハイム工業株式会社、連結子会社)を設立、ユニット住宅の製造を開始
1977年 5月	事業本部制を導入
1982年 3月	木質系ユニット住宅「ツーユーホーム」の販売を開始
1982年 4月	群馬工場を新設、塩化ビニルパイプ、ユニット住宅外壁パネルの製造を開始
1983年 12月	米国にセキスイ・アメリカ・コーポレーション(現:連結子会社)を設立
1987年 7月	応用電子研究所(現:R&Dセンター開発推進センター)を新設
1990年 9月	住宅事業本部(現:住宅カンパニー)内に住宅総合研究所(現:住宅技術研究所)を新設
1992年 4月	京都技術センター(現:京都研究所)を新設
1997年 8月	小松化成株式会社(現:株式会社ヴァンテック、連結子会社)を買収し、パイプ事業を強化
2000年 1月	ヒノマル株式会社(現:連結子会社)を買収し、九州地区における営業を強化

2000年 3月	従来の7事業本部を住宅、環境・ライフライン、高機能プラスチックの3事業本部に再編し、新規事業本部を新設
2000年 10月	首都圏・近畿圏の住宅営業組織を販売会社に再編し、住宅販売体制を変更
2001年 3月	カンパニー制を導入し、住宅、環境・ライフライン、高機能プラスチックの3事業本部の名称を住宅カンパニー、環境・ライフラインカンパニー、高機能プラスチックカンパニーに改称
2002年 4月	本社機能を5部2室に集約
2003年 4月	中国地方の住宅販売体制を再編し、セキスイハイム中国株式会社(現:セキスイハイム中四国株式会社、連結子会社)を設立
2003年 4月	韓国の映南化学株式会社(韓国取引所上場連結子会社)を買収し、グローバル競争力を強化
2004年 8月	東北地方の住宅販売体制を再編し、セキスイハイム東北株式会社(現:連結子会社)を設立
2005年 7月	九州地方の住宅販売体制を再編し、セキスイハイム九州株式会社(現:連結子会社)を設立
2006年 10月	第一化学薬品株式会社(現:積水メディカル株式会社、連結子会社)を買収し、高機能プラスチックカンパニーのメディカル分野を強化
2007年 1月	本社機能を5部1室に再編し、CSR部を新設
2007年 7月	首都圏・中部圏・近畿圏の住宅販売体制を再編し、東京セキスイハイム株式会社(現:連結子会社)、セキスイハイム中部株式会社(現:連結子会社)、セキスイハイム近畿株式会社(現:連結子会社)を設立
2008年 4月	執行役員制度を導入
2009年 7月	米国の化学会社Celanese Corporationのグループ会社からポリビニルアルコール樹脂事業を買収し、合わせガラス用中間膜事業の安定的な原料供給体制を構築
2011年 1月	米国の医薬品会社Genzyme Corporationから検査薬事業を買収し新会社を設立、本格的なメディカル分野のグローバル展開を加速
2012年 12月	三菱樹脂株式会社の管材事業を買収し、管材を中心とする基盤事業を強化
2013年 3月	タイにユニット住宅量産工場を新設。タイでの住宅事業を本格的に展開
2015年 12月	エーザイ株式会社から検査薬事業の子会社であるエーディア株式会社(現:連結子会社)を買収し、高機能プラスチックカンパニーのライフサイエンス分野を強化